

文 化 財 学 習 会

# ふ る さ と 探 訪

テーマ 善通寺の歴史を訪ねる

講 師 大河内 義雅

(香川県文化財保護協会副会長)

平成24年1月22日(日)

共 催 高 松 市 歴 史 民 俗 協 会  
高 松 市 教 育 委 員 会

# 1 善通寺市の概要

善通寺市は香川県の西北部に位置し、南は琴平町、まんのう町、北は丸亀市、多度津町、西は三豊市に隣接する中讃地域の中心的な都市です。南西に大麻山、筆ノ山、がはいし我拝師山などの山々が連なり、東と北には平地が開けて讃岐平野に続いており、金倉川、弘田川が南北に貫流しています。この地で誕生したといわれる空海（弘法大師）によって、総本山善通寺が建立され、その門前町として発達してきました。

歴史は古く、南西部の山々の麓からは、多くの石器、土器のほか、銅剣、銅鐸などの青銅器が出土しており、市内には、弥生時代の遺跡や、前方後円墳など古墳時代の遺跡も数多く残されています。善通寺市仙遊町の現国立病院機構善通寺病院や農業研究センターを中心に広がる「旧練兵場遺跡群」は、東西約一キロメートル、南北約〇・五キロメートルの、縄文時代後期から弥生時代、さらに中世にかけての大集落遺跡で、発掘調査により、百五十棟以上の竪穴住居跡や五十棟以上の掘立柱建物跡、土器棺、銅鏡片など、多種多様な遺構・遺物が見つかっています。

明治に入り旧陸軍第十一師団が設置された後は、四国最大の軍都として賑わい、市街地の整備が進みました。第二次大戦後、師団は廃止されましたが、旧陸軍施設跡が陸上自衛隊、高等学校、国立農業試験場、裁判所、国立病院などに転用され、昭和二十四年（一九四九）には、現在の四国学院大学の前身である四国基督教学園も市内に設立されるなど、

教育・文化都市として新たに発展しました。全国に先駆けていち早く環境問題を取り上げ、市民総参加によるリサイクル運動に取り組んできた市としても知られています。

## 2 かいこうしゃ 偕行社（旧陸軍第十一師団 旧善通寺偕行社）

「偕行社」とは、明治十年（一八七七）に創立された旧陸軍現役将校の親睦団体の名称で、この団体が社交場・集会所として建設した建物も「偕行社」と呼ばれました。「旧善通寺偕行社」は、善通寺に明治二十九年に開設された旧陸軍第十一師団によって、明治三十六年五月十日に竣工しました。基礎に赤煉瓦を積み、木造平屋建て、寄棟造り瓦葺きの大屋根をのせた東西に長い建物です。よせむね北面中央の切妻造りの玄関ポーチに特徴があり、外観全体はルネッサンス様式を基調としたつくりになっています。南面には幅一・四メートルのベランダがあり、大広間から直接南側庭園に出ることができます。四国には旧陸軍師団の関係施設が少ない中、保存状態が良好で、洋風建築の普及を知る上でも重要であると評価されています。



旧善通寺偕行社

## ＜旧善通寺偕行社・建物内の様子＞

る建物です。

竣工の年の十月には、東宮（後の大正天皇）が香川県行啓の際の休憩所として御利用になり、大正十一年（一九二二）には、この地で行われた陸軍軍事大演習参観のため、皇太子（後の昭和天皇）が御宿泊されました。戦後は、米軍が進駐し、米兵らの社交場となりました。その後、昭和二十四年（一九四九）に善通寺町が土地を譲り受け、昭和二十九年から善通寺市庁舎および公民館として使われ、昭和五十五年からは市立郷土館として使用されました。平成十三年（二〇〇一）六月、国の重要文化財に指定され、平成十六年から



北貴賓室（大正 11 年皇太子御宿泊室）



大 広 間



天井のシャンデリア（当時のまま）

十九年まで保存修理工事を実施し、創建当時の状態に復元されました。偕行社本来の用途である社交場としての利便性を高める目的で、喫茶店も設置した附属棟が建設され、現在は、迎賓館として様々な行事に利用されています。

### 3 水尾写真館

よせむね

四国学院大学の向かいに、木造二階建て、寄棟造りの洋風の写真館があります。外壁は白く塗った下見板張りで、正面上部には浮き彫りにされた「水尾」の文字があります。

創業は明治三十四年（一九〇一）で、店舗兼住宅のこの建物になったのは大正末期（一九二〇年代）でした。

当時の洋風建築のまま現在でも営業している、全国でも珍しい写真館です。

出入口の引戸や窓の上の欄間、軒下、柱に装飾があり、内部ではカメラの絞りをデザインした天井レリーフや階段の手すりに装飾が施されていて、優雅な雰囲気をつくり出しています。国の登録有形文化財（平成十二年五月二十五日登録 ※個人所有）です。



水尾写真館

## 4 乃木神社

四国学院大学西側の大通りに面して緑の森が広がっており、ここに乃木神社と讃岐宮（香川県護国神社）があります。向かって右手、神明型というシンプルな形の鳥居が立っているのが乃木神社です。

ここには明治天皇の御大葬日（一九一二年）に殉死した乃木希典・

のぎまれすけ

静子夫妻が祭神として祀られています。乃木神社は、乃木將軍の死後、その生きざまに感動して多くの人々が乃木邸を訪れたことから、夫妻

の霊を慰める「乃木会」が結成されたことに始まります。東京など数ヶ所に乃木將軍にゆかりのある神社がつくられ、善通寺には昭和十年（一九三五）に造営されました。

社殿は装飾を抑えた簡素なデザインになっています。これは従来の伝統的な神社建築とは異なるところがあるため、大工でなく建築家のデザインによるものではないか、ともいわれています。

### ※ 乃木希典

陸軍大將として多くの人々から尊敬された乃木希典は、嘉



乃 木 神 社

永二年（一八四九）に長州藩士として江戸に生まれ、藩校明倫館に学びました。旧幕府と新政府軍の戦いであった戊申戦争、西南戦争に参加した後、ドイツに留学して軍政や戦術を学び、帰国後は陸軍改革に取り組みました。日清戦争従軍、台湾総督を経て、明治三十一年（一八九八）に善通寺の陸軍第十一師団の初代師団長として着任しました。

こんぞうじ

師団長として赴任した二年八ヶ月、乃木希典は金倉寺（善通寺市金蔵寺町にある四国霊場八十八ヶ所第七十六番札所）を宿舎としました。大晦日のこと、東京から静子夫人が面会に来ましたが、職務中の身であるからと会わずに追

たたず

い返します。途方にくれた婦人は、しばらく境内の松のもとに佇みますが、やがて夫の意を酌<sup>く</sup>んで帰っていきました。この話は明治の軍人の気骨をしのばせる逸話となり、夫人が佇んだ松は「妻返しの松」と呼ばれています。金倉寺には、乃木将軍が使っていた文具や軍帽などの遺品も保存されています。

日露戦争では、第三軍司令官として旅順を攻略しました。参議官、学習院長を歴任し、一九一二年、明治天皇の御大葬の当日に夫人とともに殉死しました。



乃木神社境内に移築されている  
「旧陸軍第11師団 工兵第11大隊正門」

## 5 香川県護国神社

さぬきぐうかがわけんごこくじんじや  
讃岐宮香川県護国神社

約一万二〇〇坪の広大な敷地に建てられ、約四千六百本の木々が植えられた緑の森に囲まれています。明治維新以来、戦争などによって国のために尊い命を捧げた香川県出身（三万五千七百余り柱）の英霊が祭られています。明治三十一年（一八九八）、旧陸軍第十一師団開設の際に、招魂社が祀られたのが始まりです。昭和十三年（一九三八）、内務大臣の指定により護国神社となり、造営に着手、昭和十六年に竣工しました。境内には、日本一社交通神社、先賢堂、警察消防招魂社、遺品を展示した「史料館」などがあります。



遺品を展示した  
「史料館」



軍馬の碑



香川県護国神社

## 6 旧陸軍第十一師団 騎兵第十一連隊兵舎

旧陸軍第十一師団は、日清戦争後の陸軍拡張期に増設された陸軍部隊の六師団の一つで、明治二十九年（一八九六）に善通寺町に設置され、明治三十一年に師団司令部が開庁しました。

四国学院大学構内には、旧陸軍第十一師団騎兵隊の旧兵舎が残されています。かつて市内のあちこちにあった木造兵舎の一つで、大学の校舎に生まれ変わったものです。

二号館と呼ばれているこの建物は、長さ五十八・五メートル、幅約十五メートルの木造二階建てで、玄関ポーチの屋根は四本のりっぱな石柱で支えられています。

## 7 旧陸軍第十一師団 騎兵第十一連隊本部

6の騎兵第十一連隊兵舎と同じく四国学院大学の構内にあり、旧陸軍騎兵隊の本部として使われた建物です。騎兵隊第十一連隊は、東西三一〇メートル・南北三〇五メートルの敷



旧 騎兵第 11 連隊本部  
(現四国学院大学ホワイトハウス)



旧 騎兵第 11 連隊兵舎  
(現四国学院大学 2 号館)

地を伴っていましたが、現在、敷地の大半が四国学院大学構内となっています。現在も、この連隊本部（現在は「ホワイトハウス」と呼ばれています）のほか、兵舎、脂油庫が学校施設として使用されています。連隊本部は昭和初期の建築物で、外壁がモルタル仕上げとなっています。ここでは、映画「サマータイムマシン・ブルース（本広克行監督・二〇〇五年）」のロケも行われました。

## 8 磯野家住宅

四国学院大学西側の大通りを南に進み、突き当たりの三叉路に面して建っているのが磯野家住宅です。

昭和五年（一九三〇）、旧陸軍第十一師団の陸軍主計中尉にいえいしろうの仁井榮四郎氏が建てた住宅で、伝統的な和風建築とモダ

ンな洋風建築が一緒になった和洋折衷スタイルになっています。玄関は奥にある木造二階建ての和風建築にあり、手前の洋風建築にある洋間で来客をもてなしたとみられます。

外壁は、当時では珍しいモルタルかき落として仕上げられ、柱飾りや窓などに細工が施されています。国の登録有形文化財（平成九年七月三十日登録 ※個人所有）です。



磯野家住宅

## 9 旧陸軍第十一師団 司令部（乃木館）の ぎ かん

8の磯野家住宅の西に進むと、四国管区警察学校があり、続いて陸上自衛隊第十四旅団があります。かつて旧陸軍第十一師団の被服庫、旅団司令部、師団司令部があったところですが、このうち、旧陸軍第十一師団の司令部であった建物は、現在、陸上自衛隊第十四旅団の建物として使われ、通称「乃木館」と呼ばれています。

全国に旧軍隊の建物が残っているとところは少なくありませんが、普通寺のように司令部、兵舎、兵器庫、集会所（偕行社）などすべての建物が、当初のまま移築されることなく現在も使われ続けているのは貴重な例といえます。

カイヅカ並木の奥に見える旧陸軍第十一師団司令部の建物は、明治三十一年（一八九八）の竣工で、漆喰塗りの外壁に寄棟の瓦屋根をのせ、ルネッサンス様式を基調にした洋風建築です。司令部という性格上、一連の旧陸軍の建物



↑ カイヅカ並木を抜けると  
旧司令部の建物が見える

旧 司令部  
（現陸上自衛隊第14旅  
団「乃木館」）



とは違い、威厳と質実さを感じさせます。正面の車寄せは大正十一年（一九二二）、皇太子（後の昭和天皇）の来臨を機につけ加えたものですが、外観全体としては竣工当時の雰囲気をよく残しています。

内部は、使い勝手に合わせてそれぞれに改造されていますが、正面入口から中央階段へと続く玄関ホールは、大きく手を加えられることなく現在も大切に使用されていて、明治時代の雰囲気に満ちています。二階には、明治三十一年から三十四年までの二年八ヶ月、初代師団長であった乃木將軍の部屋があります。現在、この部屋は「乃木記念室」となっていて見学ができます。（見学は無料、電話予約が必要です。）

## 10 総本山善通寺

空海（弘法大師）の誕生の地といわれている善通寺は、屏風浦五岳山善通寺誕生院と称し、真言宗善通寺派の総本山で、四国霊場八十八ヶ所第七十五番札所です。  
びょうぶがうらごくざんぜんつうじたんじょういん

大同二年（八〇七）、唐から帰国した空海が、長安（現在の西安市）の青龍寺の仏閣をしょうりゅう手本に、弘仁四年（八一三）まで六年の歳月をかけて建立したといわれ、同じく空海が開いた高野山の金剛峰寺、京都の東寺よりも早くに建てられた真言宗最初の根本道場とされています。寺の名前は、空海の父、佐伯直田公善通卿の名に因んで名付けたと伝えられています。さえきあたいのたきみよしのみち  
こうしきざんまた、山号は、寺の南西にある小高い香色山と、それに連なる筆ノ山、我拝師山、がはいし

中山、火上山ひあげの全五つの峰（普通寺五岳）が屏風を立てたようにそびえていることに由来しています。本尊は、薬師如来座像で、仏師・運長の作とされています。

創建当時は四町四方（二百ヘクタール）の敷地に、金堂や講堂など十五のお堂が建ち並んでいたようですが、出土した瓦などにより創建は奈良時代で、当初は佐伯氏の氏寺ではなかったかと推測されます。その後は、幾度か荒廃、再建を繰り返しましたが、永禄元年（一五五八）の戦火で堂塔伽藍は全て焼け落ちました。しかし、高松・丸亀両藩の援助により次第に復興し、現在の姿に整えられました。昔から歴代の天皇の信仰も厚く、しばしば綸旨りんじ、院宣などの天皇ゆかりの品も寄せられ、また空海の子作や遺品も多く残されています。代表的な宝物としては「金銅錫杖頭こんどうしやくじょうとう（国宝）」、「一字一仏いちじいちぶつ法華經序品（国宝）」、「木造吉祥天立像（国指定重要文化財）」、「木造地藏菩薩立像（国指定重要文化財）」、「木造稚児大師立像もくぞうちこーだいしりゆうぞう」、「普通寺伽藍がらん并寺領絵図ならびにじりょうえず」などがあります。

境内は広大で、東西二院に分かれ、東院は伽藍がらん、西院は誕生院と呼ばれています。東院



総本山普通寺（東院・南の大門）

には金堂を中心に堂行堂、五重塔、釈迦堂、鐘樓、五社明神、佐伯八幡、三帝御廟、善女竜王社、天満宮、法然上人逆修塔などが建っており、南に大門（南大門）、東に赤門、西には西院に通じる中門があります。西院は、仁王門を入って正面に御影堂があり、聖霊殿、地藏堂、護摩堂、十王堂、親鸞堂、表書院、本坊などが建ち並んでいます。（―傍線のついている建物はそれぞれ、国の登録有形文化財〔平成二十一年十一月十九日登録〕です。）

## ※ 空海（弘法大師）

空海は、宝亀五年（七七四）、多度郡屏風浦（現在の善通寺市）に、父・佐伯直田公善通、母・玉依の三男として生まれました。たまより幼名は真魚まおといい、十一歳で讃岐国学（地方役人を養成する機関）に学ぶかたわら、叔父・阿刀大足あとおおたりに学び、十五歳で上京し、十八歳で大学の明経科（いわゆる行政科で、国の高官を養成するところ）に入学した後、意を決し退学して、仏教を志し霊峰や四国各地を歩きまわりました。えんりやく

延暦二十三年（八〇四）遣唐使として中国に渡り、長安で青龍寺の恵果和尚から真言密教を直伝され、真言宗第八祖となります。日本における真言宗の開祖であり、「三教指帰」、「弁頭密二教論」、「文鏡秘府論」など多くの著作を残しました。また、中国では五筆和尚と呼ばれたように書の大家であり、土木・建築・鉦業・自然科学・医療のさまざまな分野にも才能を発揮し、日本初の庶民のための学校「綜藝種智院」を開校しています。べんけん みつにきやうろん  
しゅげいしゅちいん

帰郷した空海は、それまでにない独創的な設計とその人望で多くの人を集めて、満濃池の復旧工事を完成させました。承和二年（八三五）、高野山で入定<sup>にゆうじょう</sup>（亡くなること）し、曾孫弟子にあたる観賢僧上（高松市鶴尾地区出身）の運動の結果、延喜二十一年（九二二）に「弘法大師」の諡号<sup>しごう</sup>（死後における称号）が朝廷から贈られました。

## ※ 善通寺伽藍（東院） 五重塔

五重塔は舍利塔、お釈迦様のお骨を納める建物で、地・水・火・風・空の五大を表して五層につくられています。空海が創建した五重塔は焼失し、現在の塔は四代目で、明治三十五年（一九〇二）に完成しました。それでも県内に現存する五重塔の中では最も古く建てられたものです。三間四方、一メートルの基壇に高さ四十六メートル、総けやき造りの堂々としたつくりです。五層に大日如来を安置し、まわりの四本の柱にはそれぞれ阿しゅく、宝生、阿弥陀、不空成就を祀っています。



（善通寺東院）五重塔

## ※ 善通寺伽藍（東院） 法然上人逆修塔

善通寺の境内、五重塔の東南にある法然堂の中に祀られている石塔です。念仏禁止の法難に遭って四国に流された浄土宗の開祖・法然上人が自身の爪髪を埋めて建てたと伝えられています。逆修とは生きている内にあらかじめ仏事を修め自らの死後の冥福を祈ることで、法然上人が善通寺に詣でた時に、参拝者の後世の往生を祈って建立されたと伝えられています。

## ※ 善通寺伽藍（東院）の大楠

総本山善通寺の境内には、県の天然記念物に指定された二本の大楠があります。南大門を入ってすぐ左手にあるのが大楠で、その西北、五重塔を背に正面に見えるのが五社明神大楠です。

大楠は高さ三十メートル、幹の太さは地上一・五メートルのところまで十一メートルもあり、大きく伸びた枝は東西で二十四メートル、南北で二十九メートルもあります。樹齢千数百年ともいわれ、弘法大師誕生の頃からすでに生い茂っていたようです。

一方、五社明神大楠は高さ四十メートル、幹の太さは地上二・三メートルのところまで十メートルの大きな樹です。五社明神は善通寺領の安泰を守る氏神で、大楠の根元に社殿が祀られています。ともに長い年月にわたり、善通寺を訪れた人々に涼やかな木陰を提供し

てきました。なお、楠は善通寺市の「市の木」になっています。

## ※ 善通寺誕生院（西院）

御影堂 みえどう

総本山善通寺誕生院の本堂で、佐伯家の邸宅跡に建てられ、空海の誕生所とされています。現在の建物は天保二年（一八三一）に建立、昭和十一年（一九三六）に修築されたもので、礼堂、中殿、供養殿、奥殿の四棟からなっており、礼堂と中殿は空海の父・佐伯善通の館の跡、奥殿は母・玉依御前の館の跡、そして空海が生まれた所とされています。御影堂の背後には、空海が誕生した際に用いられたという産湯の井戸も残っています。御影堂内部には、空海自筆とされる自画像「瞬目大師像」めひきだいしぞう（秘仏）と、真言密教を伝えた八人の高僧が祀られています。地下には、長さ約百メートルの全く光のない中を歩いて弘法大師誕生の聖地をお詣りする、戒壇めぐりがあります。

## 11 善通寺市立郷土館

貴重な考古資料を中心に歴史資料や民俗資料を多数展示しています。一階には、国の指定史跡になっている有岡古墳群から出土した副葬品を中心に約五百点が展示され、善通寺市の指定文化財である、仙遊遺跡出土石棺（人面石）、金銅製冠帽（王墓山古墳



善通寺市立郷土館

出土)、陣山出土銅劍(弥生時代の平型銅劍)なども見ることができます。仙遊遺跡出土石棺(人面石)は、昭和六十年、善通寺市教育委員会の発掘調査により発見された、弥生時代後期の箱式石棺で、蓋石に、念入りに人の顔が線刻されているものです。金銅製冠帽(ぼうし)は、昭和五十八、五十九年に発掘された王墓山古墳(有岡古墳群の中央に位置する、六世紀半ばにつくられた全長四六メートルの前方後円墳)の石室内から出土した遺物です。立飾りなどで装飾され、全体に渡金されていて、国内では出土例がなく、朝鮮半島からの渡来品と考えられています。

また、二階には、善通寺市内で収集された民俗資料約五百点が展示されています。

## 1 2 善通寺市観光交流センター(旧すし傳店舗)

善通寺市指定文化財。旧すし傳店舗<sup>でん</sup>は、明治時代から軍都として栄えた善通寺市の中でも、特に賑わった料亭で、昭和初期の建築様式が残る貴重な建物です。木造二階建てで、かつての玄関部分は敷地南側に残っており、総本山善通寺の五重塔が眺められる細い路地から入るようになっています。旧玄関付近の前庭、広間や奥の客室に続く廊下に囲まれた中庭などは、料亭独特の間取りといえます。各部屋の建具や内装



観光交流センター

の座敷飾り、欄間、窓枠などの凝った意匠、二階の三十六畳の大広間にあるステージ建具など、各所に当時の内装デザインが残っています。特に、二階南側の縁側には、縁所各所に手摺を巡らす手法、その意匠をそれぞれ変えている点などが、料亭としての雰囲気を出しています。

平成二十二年二月から建物の改装工事が行われ、二十三年四月に竣工、新たに市観光交流センターとして開館しました。現在は、観光客やお遍路さんの接待所として、また、市民の交流の場として利用できるようになっています。



旧すし傳店舗玄関<sup>でん</sup>



南西側から見た建物



2 階にある大広間

【参考文献】

『善通寺観光ガイド』 善通寺市・善通寺市観光協会（二〇一一年五月）

善通寺市ホームページ『善通寺市デジタルミュージアム』

『香川県大百科事典』 昭和五十九年四月一〇日発行 四国新聞社

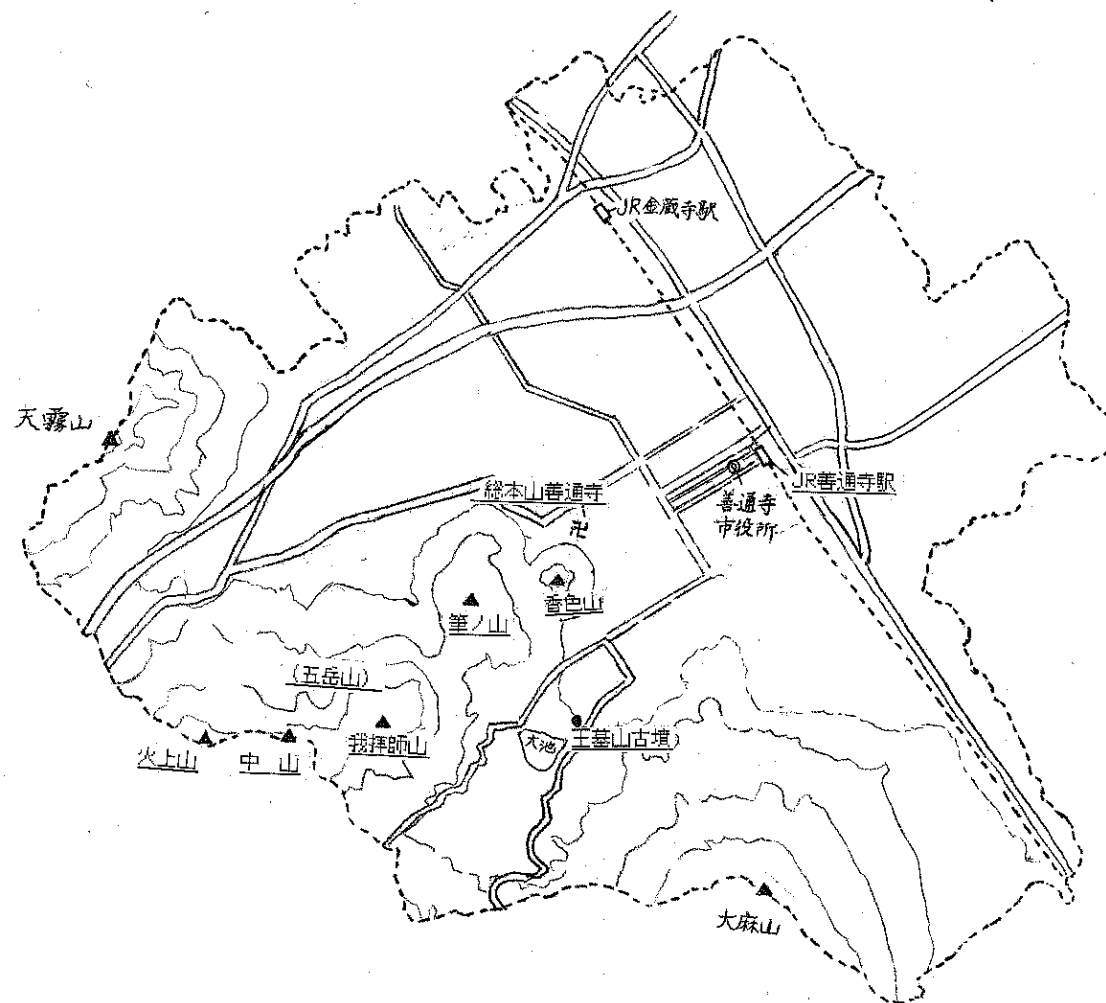
『善通寺市市勢要覧』

四国学院大学ホームページ





善通寺市



## 1月22日（日） 善通寺市からの復路

### J R土讃線

＊途中、坂出駅で快速マリンライナーに乗換え

（J R 善通寺駅）                      （J R 高松駅）

12：18 発                      →                      13：05 着

13：19 発                      →                      14：05 着

## 次回のふるさと探訪は・・・

テ ー マ 三木町井戸の社寺を訪ねる

と き 平成24年2月26日（日）

9：30～12：00



集合場所 ことでん白山駅（琴電長尾線）

講 師 千葉 幸伸（三木町文化財保護審議会委員）

☆広報「たかまつ」2月15日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

☆天候等により中止の場合のみ文化財課（TEL 839-2660  
「午前7時～開始時間まで」）でお知らせします。  
（電話が通じない場合は、「実施」です。）

### ★集合場所への交通案内★

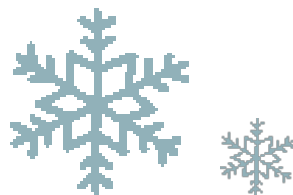
#### ことでん電車【長尾線・下り】

（瓦町駅）                      （白山駅）

8：25                      →                      8：55

8：49                      →                      9：18

## 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、  
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず、歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。